

1 学校教育目標

明るい子 強い子 考える子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・安全で笑顔あふれる学校 ・子供も教職員も生き生きと輝いている学校 ・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	(明るい子) 明朗で礼儀正しく、情操豊かで自他を尊重できる児童 (強い子) 健康で、きまりを守り、責任を果たす児童 (考える子) よく見、よく聞き、よく考えて自己表現し、行動する児童 めあてをもち、意欲的に学習する児童
○教師像	・子供の人権を守り、子供とともに汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ・子供のよさを認め、励まし、高める教師 ・指導力の向上を目指し、主体的・意欲的に研修に励む教師 ・課題意識をもち、組織的に課題に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(学校の現状)

○学級数19学級、児童数580名超、創立55周年を迎える。学区域は、南北に2kmと長く、中央を環七が東西に走り、学区を二分している。保護者・地域の方々は、学校教育に理解があり、協力的である。

児童は、明るく素直で、子供らしい児童が多い。学習中は、規律が守られ、落ち着いて学習に取り組む児童が多い。教職員は、若手教員が多く、一つ一つの授業や行事に、熱心に指導に取り組んでいる。足立スタンダードを軸にした授業を展開し、思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、取り組んでいる。

重点的な取組事項－1 学力向上

○昨年度の区学力テストでは、目標値通過率 国語95.1% 算数96.2% である。目標である85%を大きく上回った。領域別正答率でも、全ての項目で全国の数値を上回った。特に、「書くこと」の領域では、全国比130ポイントで、足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が表れた。しかし、5%の児童は、目標値を達成できていない。今後も個の習熟度に応じた指導を充実させるために、児童の習熟状況に応じた指導法や学習材、指導形態を工夫・改善していく。また、読解力・思考力・活用力・応用力を高める指導法の改善、学習材の工夫に取り組む必要がある。

重点的な取組事項－2 豊かな心をはぐくむ 規律ある行動

○コロナ禍であることから起因する、児童の心の不安定さから予想されたいじめなどは大きなものはなかった。また、褒められると「ありがとうございます。」と返事ができるなど、規律ある生活の中で、安定した心が育っていると考えられる。その素直な心・思いやりの心をより高めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心を育む	◎	◎	◎	◎	◎
3	健康な体づくり	◎	◎	◎	◎	◎

重点的な取組事項－ 1	学力向上アクションプラン
-------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ○読解力・活用力・応用力の育成	○区学力調査目標値通過率 国語 85%以上 算数 85%以上	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継	AI ドリルの活用	全児童 国語 算数 基礎技能中心	授業・パワーアップタイム 週に1, 2回	・担任 ・授業：学習内容の定着を図るため、数問取り組む。 ・パワーアップタイム：個別に学内容の定着を図る必要がある内容について取り組む。	教員の自己評価 児童の月間回答数 全学年 200 問	教員の自己評価 95%以上実施 児童の達成率 90%	自己評価の際に記入		
2 継	ICT の活用	全児童 全教科 思考力向上	年間	・担任、専科 ・児童がより分かるために ICT を活用した授業を行う	週の予定表 教員の自己評価	全教員が週3回以上 ICT を活用した授業を行う			
3 継	個別指導	全児童 国語 算数	年間 15 時間程度	・担任、専科、学習支援ボランティア ・習熟度別少人数のグループ学習を通して既習内容の習熟を図る	単元テスト（思考）	目標値を 70% として通過率 低学年 90% 中学年 85% 高学年 80% 以上の人数			

4 継	パワーアップタイム	全児童 国語 算数	5校時 前の 10分間	・担任 ・東京ベーシックドリルやAIドリルなどを使い、学習内容の復習・確認を行い、定着を図る。	ワークテスト 知識・技能領域 漢字ワークテスト	児童の90%以上が8割以上の正答率 児童の90%以上が漢字のワークテストで8割以上の正答率	自己評価の際に記入
5 継	足立スタンダードに基づいた授業展開	全児童 全教科	年間	・足立スタンダードの徹底 ・校内研究（4回）、小中連携（7回）での研究授業の実施、区内外の研究発表会への参加（区内1隣接区1） ・日常の授業観察と指導・助言（管理職・教科指導専門員）	授業公開 教員の自己評価	教員の自己評価95%以上実施	
6 継	放課後補習	対象児童	随時	・担任に加えて、専科、学習支援ボランティア ・東京ベーシックドリルや計算ドリル等を活用して、学習の習慣化・学習内容の定着を図る	単元テスト （知識・技能系）	目標値を80%として通過率 低学年90% 中学年85% 高学年80%以上の人数	
7 継	図書活動の充実	全児童 全教科 全時間	年間	・4年生以上学校図書館資料を活用して、年間10回以上探究活動を行う ・読み聞かせボランティア・教員による読み聞かせ	読書カード	全学年年間貸し出し目標 一人50冊	
8 継	寺子屋タイム	対象児童 各学級 5人程度、 各教科	毎週木曜日 放課後45分	・担任＋専科 ・教科書、計算ドリル、漢字ドリル等を活用して習熟、定着していない内容の補習を図る	単元テスト （知識・技能系）	目標値を80%として通過率 低学年90% 中学年85% 高学年80%以上の人数	

9 継	コッおは カード	全学年 全員	月 1 回 第 2 週 目	・ 家庭学習の定着を図る。 低学年…30 分以上 中学年…45 分以上 高学年…60 分以上	コッおはカー ドの提出内容 全児童の達成 率の調査					
10 継	夏期補充	対象児 童 各学年 10 名程 度 国語 算数	夏休み 期間中 の 10 日 各日 60 分	・ 担任、専科、学習ボランティア ・ 学力調査で分析した、学 習内容の補充をプリント 等を活用して理解を図る。	自作確認テス ト（初日・最 終日）		自己評価の際に記入			

重点的な取組事項－ 2		豊かな心をはぐくむ 規律ある行動			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感を高める 思いやりのある心を育む 規律ある行動をする		学校は楽しい 9 5 % 自分を肯定的に捉えられる 9 0 % みそあじ全項目 9 0 %	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策			
自己肯定感の向上	学校は楽しい 9 5 % 自分を肯定的に捉えられる 9 0 %	・ふれあい月間の取組年 3 回 ・道徳授業の充実 ・課外スポーツクラブ・金管クラブ			
思いやりの心を育てる	仲間との関わりが良好 9 0 %	・きょうだい班集会、全校遠足 ・きょうだい班活動 ・児童集会			

読書に親しみ 豊かな心を育む	進んで読書をする 85% 読書の記録目標達成率 90% 歌を歌うことが好き 85%	・朝読書週 1 回 ・読書教室 (1・2 年) ・読書月間の設定 ・音楽朝会月 1 回 ・鑑賞教室の実施
規律ある行動をする	み (身支度) そ (掃除 外遊び) あ (挨拶 返事) じ (時間を守る) 各項目 90%	・学級・学年・全校指導での 指導の徹底、 ・生活習慣強化週間 (月 1 回 1 週間) の実施

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－ 3		健康な体づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上 日常的に運動に親しむ児童の育成		全種目の 70%で区平均を上回る 児童の自己評価 項目 90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策			
体力向上	70%の種目数で区平均を上回る。	・長縄跳び、持久走の取組、 体育朝会の計画的な実施と実施方法の工夫・改善 ・調査結果を基にして強化領域の決定（投力・柔軟性）			
運動に親しむ 運動の日常化	外遊びを進んでする運動することが好き 各項目自己評価 90%以上	・体育指導技術向上のための実技研修 ・外遊びの奨励 ・のびのびタイムの実施			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。